

学校教育 目標	ふるさとを愛し 夢に向かって主体的に学び 行動できる児童の育成
育成を目指す 資質・能力	○自分の考えを理由や根拠を示しながら、文章に書くことができる書く力 ○主体的に自ら学び、行動できる力

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○各教科とも基礎・基本の定着についてはおおむね良好である。 ○資料から必要な情報を読み取る、資料をもとに考察する等、活用力に課題がある。 ○各教科とも問題を読み取る力、自分の考えを表現する力が弱い。 ○書く力については、目的に応じて文章の構成を考えたり、相手に応じて書き表し方を工夫したりする等、重点的・継続的に育成していく必要がある。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○児童アンケート(1学期)で「家で毎日決められた時間の学習をしている」は、学校全体では83%であったが、特に高学年に課題が見られる。 ○保護者アンケート(1学期)で「お子さんは、家で毎日決められた時間の学習をしている」は、学校全体では68%である。家庭学習の習慣化に課題が見られる。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○児童アンケート(1学期)の結果を見ると、「授業が楽しい」が94%、「授業がよくわかる」が96%と達成指標(80%)を上回ることができた。また、「授業中、自分の考えを書くことができています」「授業中、自分の考えを友だちに伝えることができています」は、いずれも90%を上回っており、達成指標(80%)を上回っている。 ○単元末テストの平均正答率(1学期)で、国語においては3・4年生に6割未満の児童が5%以上いる。また、平均正答率8割以上の児童の割合は、学年によって大きくばらつきが見られる。中には、70%を下回っている学年もある。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○教職員アンケート(1学期)の結果から、「こどもは学校の授業が楽しそう」は90%、「こどもは学習内容を理解している」は89%であった。 ○学習部が中心となり、児童アンケートや各種学力調査・単元末テストの結果を分析し、「学校経営計画表」検証・改善シートにおいて改善点の明確化・共有化を図り、校内研修においても、視点を設定した授業検証等を行う等、授業改善に意欲的に取り組んでいる。 ○「書く」活動については、各教科において取組を進めているが、十分な成果を上げるまでには至っていない。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○毎週、月・火曜日に国語、水曜日に算数のスキルタイム(朝の活動:15分間)を実施し、より確実な実施及び時間確保のために授業時数にカウントしている。 ○保護者による学習サポーターを導入し、授業の見守り(授業参観)や実習等の補助を実施している。 ○3・4年生の希望者を対象とした、地域の教職員経験者等による「のっはる塾」を年間20回程度実施している。	

学力に関する達成指標

○単元テストの平均正答率8割以上の児童70%、6割未満の児童5% ○「こどもは学校の学習内容を理解している」と回答する教職員85% ○「授業中、自分の考えを書くことができています」「授業中、自分の考えを友だちに伝えることができています」と回答する児童90% ○「家庭学習ができています」と回答する保護者80%

今後の 具体的 な取組	【授業改善】		【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 【テーマ】主体的に関わり、協働的に学ぶ児童の育成 【重点】思いや考えを伝え合う(対話)活動の工夫 「書く」活動の充実		
	【教員】	【児童】	
	〈取組内容〉 ○児童が意見を交流したくなるような課題を設定する。 ○学習活動(ペア活動やグループ活動等)を工夫する。 ○話型→対話へと自分の思いや考えの伝え方を充実させる。 ○振り返りの視点をしっかりとらせ、児童が書いた振り返りに課題と良い点を明示する。	〈取組内容〉 ○授業や帰りの会、人間関係づくりプログラム等を通して、自分の思いや考えを伝え合う活動に取り組む。 ○振り返りの視点に沿って、振り返りを「書く」活動に取り組む。	〈家庭・地域の取組内容〉 ○「野津原学び方マニュアル」を活用し、保護者と連携する。 ○保護者に学習サポーターを依頼する。 ○地域の教職員経験者等による「のっはる塾」において補充学習を依頼する。
	〈取組指標〉 ○教材研究や授業構想時に、話し合い活動をどのタイミングで行うか常に見直しをもっておく。 ○ペア活動やグループ活動等を、毎時間1回以上設定する。 ○自分の考えや思い、振り返り等、「書く」活動を毎日1回以上設定する。	〈取組指標〉 ○授業で自分の思いや考えを伝え合う活動に毎時間1回以上取り組む。 ○発問に対する自分の考えや思いを「書く」活動や授業の振り返りを「書く」活動に毎日取り組む。	〈家庭・地域の取組指標〉 ○学年通信、学級懇談会等で家庭学習についての情報共有をする。 ○保護者に学習サポーターを毎月依頼する。
	〈検証指標〉 ○単元テストの平均正答率8割以上の児童70%、6割未満の児童5% ○「こどもは学習内容を理解している」と回答する教員90% ○「こどもは、主体的に学んで(自分の考えを書く活動や伝え合う活動、振り返りなど)いる」と回答する教員90% ○「事前の授業計画の中で、児童が望むであろう交流活動を組み込むことができています」と回答する教員90%	〈検証指標〉 ○「授業が楽しい・授業がよくわかる」と回答する児童90% ○「授業中、自分の考えを書くことができています・自分の考えを友だちに伝えることができています」と回答する児童90% ○「授業が終わった後、振り返りができている」と回答する児童90%	〈家庭・地域の検証指標〉 ○「家庭学習ができています」と回答する保護者80% ○学習サポーターに参加した保護者の延べ人数月5名
【授業改善以外の学力向上の取組】 ○各種学力調査の分析を学習部を中心に行い、児童の学力の実態について分析し、授業改善につなげる。 ○教室及び校舎内に学習に関する掲示物を掲示し、学習の過程・成果等の「見える化」を図る。 ○「人間関係づくりプログラム」を月4回程度実施し、授業中の「ペア・グループトーク」の活性化を図る。 ○互見授業を実施し、授業展開・導入・課題等を実際に見合い、教職員同士で授業力の向上を図る。			